

パブリック・サービス研究分科会 5月 報告書	
日時	2012年5月24日(木)
場所	文化学園大学
記録	奥井(文化学園大学)
参加者 (氏名五十音順)	太田(立正大学)、奥井(文化学園大学)、鴨下(大正大学)、高島(獨協大学)、高橋(日本体育大学)、福庭(上智大学)

【前回までの流れ】

自己紹介、担当決めをし、前期担当からの引継ぎを行った。

【作業内容】

新分科会の方針、開催日程について決めた。会員の関心のあるテーマを出し合い、どのように研究を進めていくか検討した。

【各会員の関心事】

- ・図書館と学生の関わり方について(ラーニング・コモンズ、インフォメーション・コモンズ、情報リテラシー教育など)。
- ・大学の規模に適正なサービスのあり方について。
- ・教員との関わり方について。
- ・利用者満足度の高いサービスとはどのようなものか。
- ・来館サービスと非来館サービスそれぞれの特徴と現在の展開について知りたい。
- ・滞在型図書館としてどんなサービスが求められているか。
- ・会員の所属する大学と協定を結んでいる海外の大学図書館を調べてみたい。
- ・会員の所属する大学に限らず、多くの他大学図書館を見学したい。
- ・図書館の情報発信について(特にホームページ、次世代 OPAC など、ウェブ関連)。
- ・図書館員の専門性について前期に引き続き研究したい。
- ・学外者の利用について。どこまで利用を認めるべきなのか。
- ・委託や派遣スタッフとの関わり方について。

【今期の分科会の目標】

- ・事例報告に加え、提案・提言を行うこと(中期的な提案と長期的な展望)

【次回・次々回までの課題】

- ・以下の流れで各会員の関心のあるテーマを調べ、分科会として取り組むテーマにまとめていく。
- ・次回(6月)に、「図書館と学生との関わり方」について設定した、①「学生スタッフ」②「ラーニングコモンズ・情報リテラシー教育・講習会・ツアー」③「アンケート・ニーズ・統計」という3テーマについて、事例や研究動向を調査し、各テーマの担当者が発表する。
- ・次々回(7月)に、「図書館員の専門性」「図書館の空間」「学外者の利用」について、事例や研究動向を調査し、各テーマの担当者が発表する。